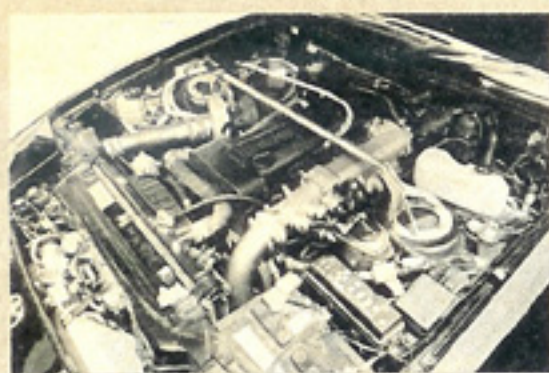


ショップ別ゼロヨンマシンの作り方



420psの強心臓、スーブラのエンジン。

レカロのシートでホールド性も十分だ／



MR2&スーブラ トライアル



もうじき発売のカッコいいスーブラ用リップスポイラー。その他の車種もラインナップされているから欲しい人は問い合わせみてくれ。

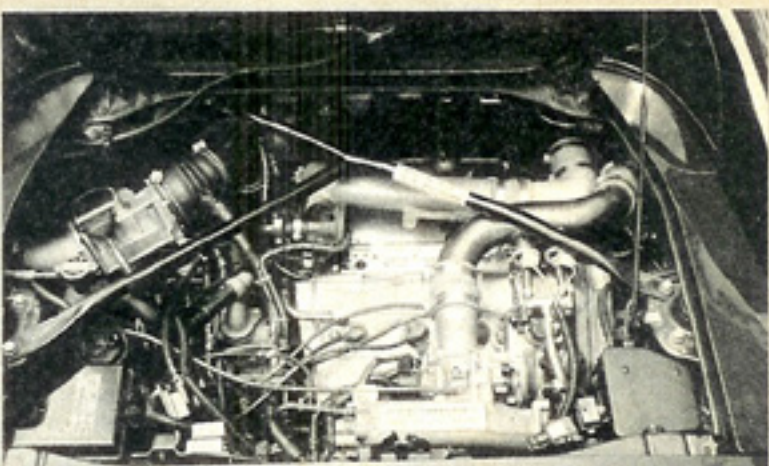
チューニング激戦区関西地方でトップクラスの実績を誇るトライアルからは、ミッドシップMR2とヘビー級スポーツカーの代表、スーブラターボRの2台が登場する。まずはMR2の紹介からいってみよう！

2輪駆動車の中で、スタート時に最も有利なトラクションを稼げるMR2をベース車に選び、スタートダッシュをさらに良くするため、エンジンチューンは低回転域でもトルクが出るような工夫した仕様になっている。

この車のチューニングポイントは何といってもオリジナルのTC28スタービンだ。このター

ミッドシップの才能をフルに 発揮する！

トライアル流ゼロヨンマシンの作り方



ゼロヨン仕様の3S-GTエンジンは300psだ／



これが高性能で好評中のトライアルオリジナルタービン「TC28S」だ。

エアインテークからはオリジナルのインタークーラーが顔をのぞかせる。



ビンの特筆すべき点は低回転からでも鋭いビックアップが得られ、なおかつ高回転域ではT04E並みの風量を獲得しているという点だ。

メインインジェクターをそのままに、追加(380cc)を2本打ち、それぞれをMFCとレビックIIでコントロールしている。

この仕様で現在300psを絞り出している。ちょっと控え目な馬力だな、と思った人もいるだろうけどゼロヨン仕様だったからこれ位のチューニングでもかなりいいんだ。4輪駆動のGT-Rが280psで13秒そこそ

このタイムというのを考えれば300psで12・8秒というタイムはかなりのものだ。

ライトチューンでもここまでいける見本のようなマシンだ。

「このMR2は低回転域からトップエンドまでマイルドに吹け上がるボディも小さめで小回りも効くからいいですよ」と東大阪店店長の有馬さん。

続いてビッグシングルのタービン搭載のスーブラの登場だ！

この手のヘビーウェイト車でゼロヨン仕様を作るとなると絶対的なパワーが最低条件となってしまうためノーマルタービンでは役不足だ。そこでタービンはRHC-7をチョイス。

より効率的にタービンを回すためにインタークーラー、バイピング、エキゾーストマニホールドをオリジナルで製作して高風量をものにしている。この仕様でブースター・2kg/cm²時に420psだ！

トラクションを多く稼ぐためにブリヂストンから新しく発売されたエクスペディアS-01のF235/45・17インチR255/40・17インチの極太タイヤが役かっている。

バランスを考えながらチューニングしていくショップだから予算に合わせたハイレベルなチューンアップが可能だ。

0-400m
12秒8



外観はおとなしいが中身はスゴイぞ／